

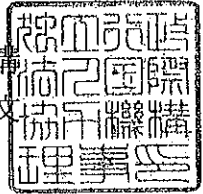


JICA (ER) 第7 - 09001号

平成21年7月9日

環境社会配慮審査会
委員長 村山 武彦 殿

独立行政法人 国際協力機構
理 事 黒木 雅文



環境社会配慮審査会への諮問について

JICA 環境社会配慮ガイドライン 2.4 の規定に基づき下記事項につき諮問いたします。

記

1. 件名

諮問第2号

「モンゴル国ウランバートル市水供給改善計画準備調査」

2. 諮問事項

モンゴル国ウランバートル市水供給改善計画準備調査に係る環境社会配慮におけるスコーピング案

以 上

平成21年9月15日

独立行政法人 国際協力機構
理事 佐渡島 志郎 殿

環境社会配慮審査会
委員長 村山 武彦

諮問第2号に対する答申について

環境社会配慮ガイドライン2.4の規定に基づき、諮問第2号「モンゴル国ウランバートル市水供給改善計画準備調査」（無償資金協力）に係る環境社会配慮におけるスコーピング案について、別紙のとおり答申いたします。

コメントの種類に応じて、答申内容を協力事業に反映するよう、お取り計らい下さい。

以上

「モンゴル国ウランバートル市水供給改善計画準備調査」 に係るスコーピング案における答申

既存計画および関連制度との関係

1. 世界銀行をはじめとする各国ドナーもゲル地区改善に向けた取り組みを行っているため、既存の事業との整合性を保ち調査が進められることが望ましい。
2. 本案件がウランバートル市の中長期の生活用水供給計画の中で、如何なる位置づけになるかを確認すべきである。
3. ナライハ下流地域が水源保護区に指定された経緯につき、確認すべきである。

環境社会影響の評価

4. スコーピング表の「30. 事故」の項は「環境汚染」の分野ではなく、「社会環境」の категорияに変更すべきである。
5. 市外からの人口流入、アパート地区の動向のみならず、ゲル地区に於ける需要の変化も考慮しつつ、水需要予測を検討すべきである。
6. 水源井の位置、周辺の既存井戸の数・位置・利用状況、表流水の利用状況等を明確にし、プロジェクトの実施がガチョルト地区を含む水源利用地域の水供給に与える影響につき、再評価すべきである。
7. 新規地下水開発による地域住民の水利用への影響、社会的弱者への影響につき、現地状況を確認した上で、再評価すべきである。
8. ゲル地区の社会環境につき、他ドナーや行政機関が所管する情報等を活用し、状況の把握に努め、必要に応じて現地調査を行う等の対策を講じるべきである。

対策

9. 下水(生活排水/汚水)処理状況、下水処理能力、下水未接続世帯の汚水処理状況等を確認し、本プロジェクト供用後の水使用量増加に伴う水質汚濁の影響評価を行うと共に、下水能力計画の強化についても検討・提案することが望ましい。
10. 地域の水資源量に限界があるため、節水の強化と共に処理水の活用も検討・提案することが望ましい。
11. 本プロジェクト実施の際には、放牧遊牧民の居住地域や都市化が進む地域での他の水源開発や管敷設プロジェクトを勧奨し、その知見・経験を本プロジェクトに反映することが望ましい。
12. 本プロジェクト実施に際して、運営・維持管理能力等ソフト面についても調査し、改善点/強化策につき検討・提案することが望ましい。

ステークホルダー協議

13. 調査期間内で実施される各ステークホルダー協議の目的を明確にし、効果的な協議が行われることが望ましい。

以上